

全国大学生生活協同組合 関西北陸ブロック 2020年度ブロック方針書



つながる元気、ときめきキャンパス。



全国大学生生活協同組合連合会 関西北陸ブロック



関西北陸ブロック方針の位置づけと構造

ブロック方針の位置づけ

「関西北陸ブロック方針」とは、関西北陸ブロックに所属する48大学生協すべてがあらゆる「取り組み」(※)を通じて、1年間「**組合員のよりよい生活と平和**」の実現に向けて意識していく方向性を示したものとなっています。

私たち大学生生活協同組合は、設立された当初から、「組合員のよりよい生活と平和」を実現していく組織として歩みを進めています。これは、時代が変わっても、変化しないアイデンティティとして存在しています。

その中で、現在の大学生協がどのような組織であるべきかを考え、組合員を取り巻く社会や大学の変化、それに影響して生じる組合員の生活の変化に応じて柔軟に対応していくことが求められます。現時点での関西北陸ブロック48会員生協での到達点と社会・大学の変化を踏まえて、**すべての会員生協で共通して意識していく大きな方向性として本方針を設定します。**



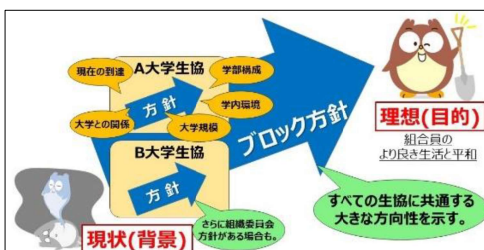
▲図①：ブロック方針の位置づけ

各会員生協の方針との関係性

多くの生協では、総会・総代会などの場で議決された単協としての「方針」や「事業計画」などが存在しています。また、部署ごとの方針や年間計画、組織委員会としての方針(「学生委員会方針」など)を取り決めている生協も存在します。

「関西北陸ブロック方針」は、こういった各会員生協での方針や計画に対して別途存在するものではなく、**そういった方針や計画を包含する大きな方針**として存在しています。ブロック方針の策定では、ブロック内各会員生協のビジョンと現時点での到達を踏まえて、ブロック内すべての会員生協に共通する普遍的な内容を盛り込むよう意識してきました。

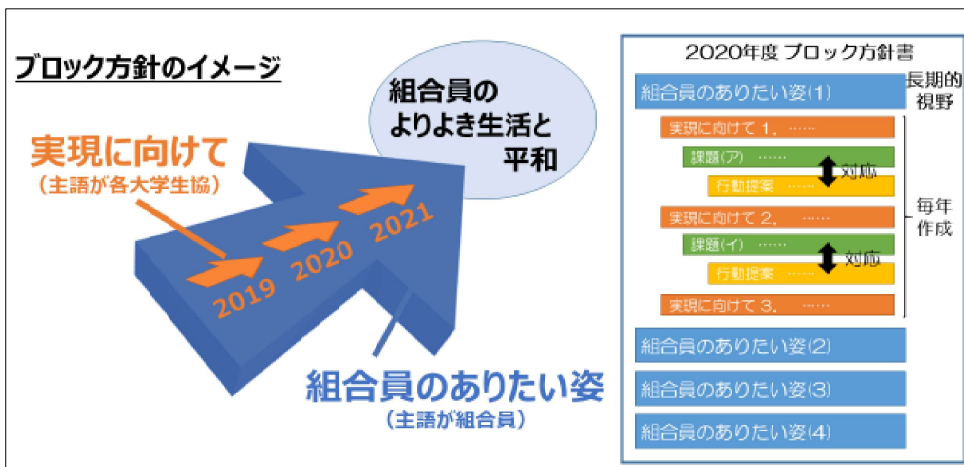
したがって、**各大学生協が自生協の方針や計画だけではなく、ブロック方針への理解も深めることで、それぞれの生協がより安定的に・発展的に目指しているビジョンを実現することができると**考えています。



▲図②：各会員生協の方針との関係性

関西北陸ブロック方針の構造

2019年度以降の関西北陸ブロック方針は「組合員のありたい姿」と「実現に向けて」の大きく2点で構成されています。



組合員のありたい姿

私たち組合員がよりよい生活と平和を実現していくために、**組合員一人ひとりが「このような姿であるべき」「このような姿になりたいな」という組合員の姿勢を表現しているものです。**したがって、文章の主語は各大学生協の「組合員」となっており、**長期的な視野で**このような組合員を増やしたいという方向性を示しています。

実現に向けて

上記の「組合員のありたい姿」を組合員が実現できるよう、**それぞれの大学生協がどのような点を意識して取り組みを進めていくべきか**を示しています。したがって、文章の主語は「大学生協／関西北陸ブロックの48会員生協」となっており、前年度の到達を踏まえて単年度で振り返る方向性を示しています。

課題

行動提案

「組合員のありたい姿」を念頭に「実現に向けて」をさらに具体化させたものとして、「課題」と「行動提案」も方針に盛り込んでいます。これらの「課題」と「行動提案」については、すべての会員生協で実施すべき取り組みではなく、会員生協の状況や現時点での到達も踏まえた上で、**具体的な行動を起こすためのヒント**として活用しましょう。

(※)全国大学生協連2019年度活動方針に則って、これまでは主に商品・サービスを中心とするものを「事業」、組織活動を中心とするものを「活動」と表記してきたが、以降区別せず「取り組み」として表記しています(なお正確な意味での「事業」は生協の目的に沿って行われる活動全般を指します)。



「ありたい姿」・「実現に向けて」とそれに基づいた「

4つの「ありたい姿」と大学生協

「大学生生活協同組合」という単語とその使命から、大学生協として願う「組合員のありたい姿」を4つ導き出しました。日ごろは何気なく使っている「大学生生活協同組合」という単語ですが、改めて私たちのアイデンティティについて考える材料として捉えることができます。



① ありたい姿(1) 「ともにつくる」と「協同組合」

- ✓ 「協同組合」という組織は、「よりよい…活動」を実現するために自発的に集まって構成される組織と定義することができます(例:生活協同組合は「よりよい生活」の実現、農業協同組合は「よりよい農業活動」の実現)。
- ✓ 私たちは「協同組合組織」であることを改めて認識し、ともにつくっているという意識を持って自発的に運営参加する組合員を増やしていきたいです。

② ありたい姿(2) 「安全・安心」と「(大学)生活」

- ✓ 大学での「生活」をより良くしていくという視点から、大学生としての健康的な生活を実現しあらゆるチャレンジができる環境をつくっていくことが大切です。
- ✓ 多様な大学の構成員が大学生協の様々な取り組みを土台に、安全・安心に生活を過ごすことができ行動できる可能性を広げていきたいです。

③ ありたい姿(3) 「学びと成長」と「大学(生活)」

- ✓ 私たちの活動フィールドである「大学」では学生・教職員を含めたすべての人が、学修・研究活動を通じて日々成長しています。
- ✓ 学生組合員の多くがキャンパスライフすべてを通じて社会人の一歩手前の存在として成長しています。大学生活の中で学びと成長を実感し、「明日、次どうになりたいか」「将来どうになりたいか」を自ら考え、なりたい姿を実現したいです。

④ ありたい姿(4) 「社会に生きる」と「生活協同組合」

- ✓ 「生活協同組合」が大切にしたいアイデンティティのひとつに、コミュニティ(大学を中心とした地域)に根付いた組織として、地域社会の持続可能な発展へ関与していくことが必要です。
- ✓ その前提として、組合員一人ひとりが社会の構成員であることを意識・実感し、行動を起こせられるよう、働きかけあっていきたいです。

推進分野」の設定について

「実現に向けて」の3段階

それぞれの「ありたい姿」に対し、「実現に向けて」各会員生協が取り組むことを3つの段階で提示しています。

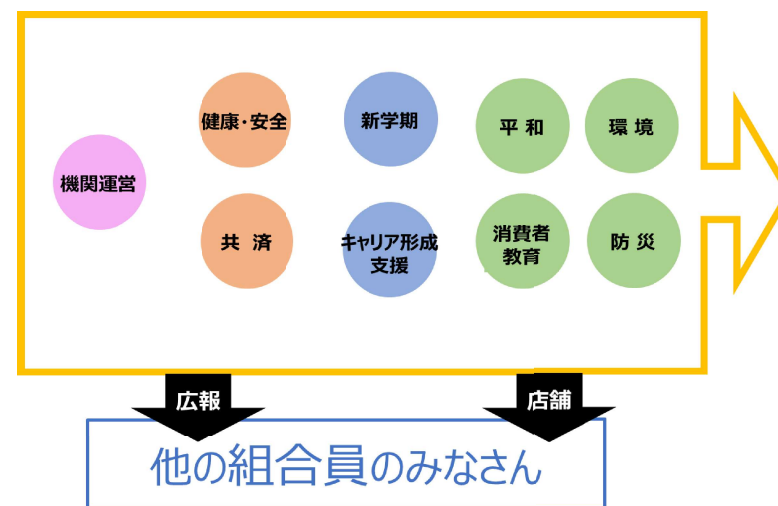
実現に向けて① 「組合員のありたい姿」を実現する第1歩としてまず取り組むべき内容。

実現に向けて② 「組合員のありたい姿」をさらに実現するために、レベルアップして取り組む内容。

実現に向けて③ 「組合員のありたい姿」を1つの生協で実現するのではなく、連携を通じて可能性を広げる内容。

「推進分野」の設定

単年度で設定した「実現に向けて」の取り組みを広げていくにあたり、ブロックとして推進したいポイントを端的に表した「推進分野」を設定し、それぞれに担当の学生事務局を配置します。





2019年のふりかえりと2020年度方針ダイジェスト

よりよい生活をともにつくっていく組合員を増やすために…

【2019年度の成果】

- ✓ 組合員の声で運営する意識が高まり、声を聞くツールが多様になってきました。
- ✓ 事前・事後の活動を含め、総会・総代会を「議論する場」にする工夫が増えています。

【2020年度に向けて各生協で考えたいポイント】

- ✓ 組合員が一番大学生協に触れる機会が多いと考えられる「お店」です。大学生協らしいお店とは何かを考えていくと、より多くの組合員参加につながると考えます。
- ✓ 大学コミュニティ、地域コミュニティに目を向け、大学生協組織“だけ”で取り組むのではなく、学内他団体や地域の諸団体とともに取り組むことを視野に入れましょう。

健康な心身で何事にもチャレンジできる組合員を増やすために…

【2019年度の成果】

- ✓ 食堂の利用体験をはじめ新生活への対応をしっかりと行えた生協が多くなりました。
- ✓ 「たすけあい」の想いをベースに4本柱を軸とした共済の取り組みを行えました。

【2020年度に向けて各生協で考えたいポイント】

- ✓ 引き続き、給付事例学習会の重要性についてはブロック全体でも考えたいポイントです。
- ✓ 「実態に即した取り組み」を行うためには何が必要か改めて考え、実感（組織委員の生活実感や職員の日常的な組合員との会話などから）と実態（学生生活実態調査や給付事例などのデータから）の両方に目を向けて取り組みを行うことが大切です。

実現に向けて①

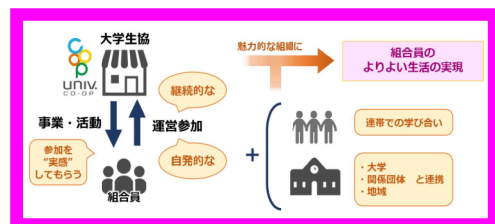
組合員の想いを広げて魅力を高めるために、お店をはじめとする大学生協の取り組みを組合員みんなでつくっていきましょう。

実現に向けて②

組織委員会活動や総代活動をはじめとする組合員主体の活動を活かし、すべての組合員の継続的自発的な運営参加を増やしましょう。

実現に向けて③

大学や関係団体・地域との連携を通じて、大学生協の組織としての信頼度を高め、取り組みをレベルアップさせましょう。



実現に向けて①

心身ともに健康で安全な組合員の生活を考えるため、組合員の現状と取り巻く環境の変化を実感と実態をもとに把握しましょう。

実現に向けて②

健康な心身で何事にもチャレンジできる組合員を増やすため、実感と実態をもとにたすけあいの輪が広がる取り組みを行いましょう。

実現に向けて③

大学に関わる人々が安全で安心な生活を送れるよう、大学保健管理施設や行政・医療生協・企業といった組織と協同し、専門的な知識を生かした取り組みを行いましょう。



なりたい姿に向けて成長し続けて行ける組合員を増やすために…

【2019年度の成果】

- ✓ 4年生や院生・卒業生も関わって新学期の取り組みを作りこむ生協が増えました。
- ✓ キャリア形成支援の取り組みが進みました。

【2020年度に向けて各生協で考えたいポイント】

- ✓ 目的・目標意識を持つことや「なりたい自分」をイメージし生活を振り返ることの大切さをともに学んでいきたいです。なぜ私たちが大学生協の取り組みとして行うのかを学生・職員一緒に考えていきましょう。
- ✓ 新学期の時期の新入生への対応に加えて、年間を通じた学生組合員の学びと成長を考えていかなければなりません。組合員の動向を追いつづける中で、必要な対応を考えたり、次世代の組合員に向けた取り組みに活かしたりすることが大切になります。

実現に向けて①

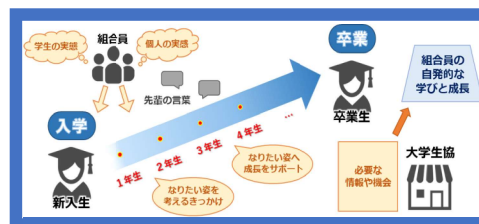
組合員の実態と実感を捉え、先輩自身の言葉で一人ひとりに伝えることで、組合員が目的・目標をもつ機会を作りましょう。

実現に向けて②

学生組合員の入学から卒業までの大学生活を追い、一人ひとりになりたい姿を見つけ成長していく取り組みを年間を通して行いましょう。

実現に向けて③

大学内のすべての人が必要な場面で必要な情報や機会を持ち自発的に学び成長できるように、取り組みの発信力や大学との連携を強化しましょう。



自分の考えを広げ、行動につなげていく組合員を増やすために…

【2019年度の成果】

- ✓ SNSや新学期活動、総会・総代会といったアプローチのフィールドの工夫が増えてきています。
- ✓ 行動の提案まで併せて行えた生協が多かったです。

【2020年度に向けて各生協で考えたいポイント】

- ✓ 社会的課題を包括的に捉え、持続可能な社会の実現に向けて取り組めることを考えていきましょう。
- ✓ 行動提案をした後の組合員に注目し、継続的に組合員が社会に目を向けるにはどのようにすればいいかという視点を持つ必要があります。
- ✓ 大きな課題だからこそ、連帯の場を積極的に活用して取り組みにつなげることが大切です。

実現に向けて①

組合員が社会の一員であることを実感できるように、組合員が様々な社会的課題について包括的に捉えるきっかけをつくりましょう。

実現に向けて②

社会の一員であると感じた組合員が周りの組合員や社会に対して継続的に行動が起こせるよう工夫しましょう。

実現に向けて③

社会の一員として組合員が学び行動できる場面をつくるため、大学や他団体との連携、連帯の場を積極的に活用していきましょう。





組合員のありたい姿(1)：ともにつくる

実現に向けて①

協同組合の想いを広げて魅力を高めるために、お店をはじめとする

課題(ア) 組合員の声・実態を取り組みに反映するための分析を行う。

- ・ひとことカードを理事会や組織委員会、職員会議などで分析する。
- ・SNSなどでのアンケートや質問の回答内容や分析結果を部内で共有する。
- ・企画の中で得たデータ(アンケート結果など)を活用して次の取り組みを考える。

💡取り組みのヒント

京都大学生協
「部内報でのひとことカード分析」



毎月、役職員を対象に発行している生協の部内報「ぼーるべん」の中で継続的にひとことカードの集約状況と分析結果を掲載。各ショップ・食堂の店長が分析し、その情報が理事会でも共有されることで、組合員を意識した議論につながる。

大阪経済大学生協
「ハロウィン×ひとことカード企画」



ひとことカードの認知が低いという現状から実際に組合員にひとことカードを書く体験をしてもらい取り組み。実際に多くのひとことカードが集まり、企画後は学生委員会の部会で専務と一緒にひとことカードの内容を分析した。

課題(イ) 組合員の声を取り組みに反映したことを組合員に見える形で伝える。

- ・実現したことをPOPに書き、商品やひとことカードに貼る。
- ・総会・総代会後に当日出た意見を実現したという報告を行う。
- ・投票で割引商品を決める取り組みで、商品売り出すときにもその旨を伝える。
- ・取り組みの背景をきちんと参加者(利用者)に伝える。

💡取り組みのヒント

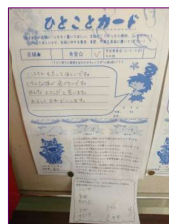
酪農学園生協
「ひとことカードの、叶ったよ！POP」

一目でひとことカードの要望が実現したことをお知らせするために、POPを使って叶ったことを伝えられるPOPを作成している。組合員にとっては声を取り組みに反映した実感がわきやすく、さらなる運営参加を見込める。



琉球大学生協
「10人チャレンジ」

ひとことカードの下に「10人チャレンジ」の紙を貼り、その意見に賛同した人が名前を書き、名前が10人集まれば実現するという取り組み。1枚のひとことカードから共感者が増え取り組みにつながるという取り組みは「大学生協らしいお店」の実践を模索した取り組み。実際に食堂の「ごはん」のサイズの選択肢を増やした。



大学生協の魅力を実感し運営に主体的に参加・参画することで、よりよい生活をともにつくっていく組合員。

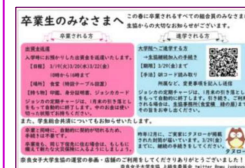
大学生協の取り組みを組合員みんなでつくっていきましょう。

課題(ウ) 学部学生だけでなく、大学の構成員すべての声を大切に生協づくりをする。

- ・新学期時期に「先輩学生が選んだ文房具フェア」を行う。
- ・階層別委員会同士で関わる機会を設ける。
- ・出資金返還や継続加入など上回生・院生・留学生・教員にも目を向けた取り組みを実施する。

💡取り組みのヒント

奈良女子大学生協
「切り替えPOP」



卒業生には出資金の返還や共済について、大学院進学者には継続加入の方法を伝えることを目的としてPOPを作成。食堂の卓上POPとしての活用のほか、購買にポスターをして貼りだしたりTwitterによる発信にも活用した。

未来大学生協
「Spring Stationery Fair 2019」



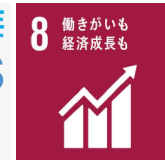
新入生に向けたショップでの文具フェア。上級生の声をもとに商品を選んだだけでなく先輩の素朴な実感をポップに書いてもらい、新入生に伝えた。ショップの商品を通じて組合員同士のコミュニケーションを生んだ。

💡活用できるツール



大学生協ハンドブック

「大学生協の理念と歴史」「大学生協の事業と活動」「大学生協の仕組みと運営」「大学生協の経営と決算」という4つのPartで構成されたハンドブック。1972年の初版発行以来改定を重ね、2019年の5月に第10版が発行された。各生協・地域での学習・教育活動に活用し、「大学生協は何をする組織化」ということをいちから確認することができます。



組合員のありたい姿(1)：ともにつくる

実現に向けて②

組織委員会活動や総代活動をはじめとする組合員主体の活動を増やしましょう。

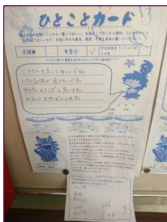
課題(ア) ひとことカードの投稿数・回答数を増やして組合員の自発的な参加につなげる。

- ・ひとことカードの回答を丁寧に行う。
- ・回収箱や掲示板を購買や食堂の目につくところに設置する。
- ・正規職員やパート職員、組織委員と一緒に回答を考える。
- ・過去のひとことカードをファイリングして組合員がいつでも見られるようにしておく。
- ・ひとことカードの回答をSNSやホームページでも紹介する。

取り組みのヒント

琉球大学生協 「10人チャレンジ」

ひとことカードの下に「10人チャレンジ」の紙を貼り、その意見に賛同した人が名前を書き、名前が10人集まれば実現するという取り組み。1枚のひとことカードから共感者が増え取り組みにつながるという取り組みは「大学生協らしいお店」の実践を模索した取り組み。



大阪樟蔭女子大学生協 「私も一言カード」



食堂に入っすぐの場所に設置されているひとことカードのブース。カードには「意見/要望/苦情/相談/その他」と書く内容のカテゴリー欄を設けてひとことカードを書くハードルを下げている。過去のカードをファイリングしたり回答をSNSにアップしたりと1枚のひとことカードを存分に活かす。

活用できるツール



総会・総代会ハンドブック

総会・総代会とはそもそも何でどういう役割を持つのかということから、その前後の取り組みに至るまで「学び」と「ヒント」が載せられています。このハンドブックを片手に理事会メンバーや学生委員会を中心にどんな総会・総代会を目指すか議論をすればきっと盛り上がる！



関西北陸ブロック総会・総代会事例集

2019年度に行われた関西北陸ブロック内ほぼすべての大学生協の総会・総代会の様子がまとまった1冊。それぞれに成果と課題がありますが、各生協が自分たちなりに工夫した事例は学び合いのきっかけになりそう。データ版も。
https://ksnet.u-coop.net/block/info/post_33.html



2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

8 働きがいも
経済成長も



17 パートナシップで
目標を達成しよう



大学生協の魅力を実感し運営に主体的に参加・参画することで、よりよい生活をともにつくっていく組合員。

活発にし、すべての組合員の継続的・自発的な運営参加を

課題(イ) 総代(組合員)としての自覚を高め、意見交流をする機会を継続的に設ける。

- ・総代通信などを定期的に発行することで総代である意識を持ってもらう
- ・総代交流会を四半期に1回程度実施して総代同士の意見交流を活発にする
- ・総代と一緒に企画を立案して運営する
- ・半期総括を総代交流会や組合員活動の中で公開する

取り組みのヒント

富山大学生協 「Univ.トーク」



総代ミーティングの取り組み。いわゆる日常期に開催し、大学生活の不満や理想を出し合ったうえで、それらに対する解決策を考えるGWを実施。

京都大学生協 「中期計画の作成」

総代会に向けて中期計画を作成・ビジュアル化して配布した。1つ前の中期計画を踏まえ、理事会・総代会・総代交流会で1年間議論を重ねたうえで作成し、公開した。



課題(ウ) 取り組むことを目的化せず、現状・目的を明確にして取り組みを行う。

- ・恒例企画が否かに関わらず、理事会で組織委員会活動の企画書をきちんと議論する。
- ・理事会の議論を組織委員会内で共有し、取り組みにつなげる。
- ・組織委員会活動で得た組合員の情報を理事会の報告に入れる。

取り組みのヒント

奈良県立大学生協 「学生委員会の企画書FMを作成」



理事会に提出する学生委員会の企画書FMを更新した。「背景・組合員の現状」「企画目的・組合員の理想の姿」「目標」などの欄に加え、「大学生協方針との関係」の欄を設けた。奈良県立大学生協のビジョンの中で必要な取り組みか否かが理事会で見定めることができるようになった。

京都橘学園生協 「新たちばなさんいらっしゃい！」



新入生対象の新入生歓迎&仲間づくり企画。当時の学生委員数は3人という小さな委員会だったが、有意義な学生生活への第1歩である「友だちづくり」が大切だということを忘れずに、他団体で頑張る同級生や先輩に声をかけ、たくさんの繋がりをつくる取り組みになった。



組合員のありたい姿(1)：ともにつくる

実現に向けて③

大学や関係団体・地域との連携を通じて、大学生協の組織としての

課題(ア) 大学生協の連帯活動を活用して、取り組みをレベルアップさせる。

- ・全国・地域のセミナーへ積極的に参加し、部内の取り組みに学びを活かす。
- ・近隣している、もしくは共通点があるなどの大学生協同士での相互訪問（店舗見学や活動交流）。
- ・取り組み時のリハーサル・ロールプレイングを他の生協に公開し参加者役としての参加を呼び掛ける。

！取り組みのヒント

大阪大学生協・関西学院大学生協
「阪大×関学交流会」



担当学生事務局の協力を得ながら各学生委員会の幹部が中心となって交流会を実施。昨年までは「店舗活動」に限定した交流をしていたが、より多くの学生委員のモチベーションアップを目指しお互いの活動交流やテーマ別の交流を行った。

奈良女子大学生協・奈良教育大学生協
・奈良県立大学生協
「新学期ブラッシュアップ交流」



大学同士の距離の近さを活かして、新学期活動のリハーサルを見合う取り組み。訪問する側は新入生役としてリハーサルに参加したあと振り返りを一緒に行う。仲間づくり企画のリハーサルでは、自分たちにとっても友だちができる機会になり、新学期活動だけでなくその後の取り組みにも影響を与えた。

大学生協の魅力を実感し運営に主体的に参加・参画することで、よりよい生活をともにつくっていく組合員。

信頼度を高め、取り組みをレベルアップさせましょう。

課題(ウ) コンプライアンスを遵守し、大学生協組織の信頼度を高める。

- ・新学期活動前に部内で個人情報の取り扱いについて意識統一する。
- ・初回または第2回理事会において、定款や理事会規則を役員全員で確認する。
- ・総会・総代会運営の際に連合会のフォーマットやモデルスケジュールを活用する。

！取り組みのヒント

福井大学生協
「総代会計画の作成」

連合会のフォーマットを活用しながら総代会に向けたスケジュールを作成した。理事会メンバーにも定期的に報告をしながら余裕を持って総代会に臨むことができた。



京都教育大学生協
「みらい教室」



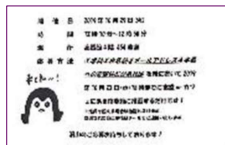
副学長からの提案で、学祭にてSDGsに関する生協学生委員会企画「みらい教室」を行なった。子どもがたくさん来るので、クイズやゲームも伝わりやすいように工夫。学内で学生委員会の認知度・信頼度が上がっていることがうかがえる。

課題(イ) 大学内にある生活協同組合としてコミュニティを活性化させる。

- ・大学との定期懇談や活動報告を行い、組合員へのアプローチを考える。
- ・職員・組織委員と一緒に学長訪問を行う。
- ・地域生協や府県連とともに実施できる取り組みを考える。

！取り組みのヒント

大阪樟蔭女子大学生協
「学長企画」



総代会後にその報告を兼ねた学長懇談を実施。その際に学長から「学生の話を知りたい」という要望があり、学生委員が主体となって学長と学生組合員の交流の場をつくった。日常の悩みなども共有することで大学と一緒によりよいコミュニティづくりにつながった。

甲南大学生協
「合格者保護者説明会」



コープこうべの職員の方が壇上に立ちコープこうべへの加入を案内。コープこうべは甲南女子大学生協や神戸市薬科大学生協とも連携し、3大学の学生限定で個配利用料30週間半額などで大学生協への加入とともにコープこうべへの加入を勧めた。地域生協とともによりよい生活の実現方法を考えた取り組み。

！活用できるツール



大学生協インフォメーションサイト

スタッフオンリーページ（詳しくは本書の巻末参照）の中にあるページ。モデル定款や規則も載っており、活用次第でより組織としてのレベルアップが図れる。



エリア学生委員会LINE

正副学生委員長を対象に各エリアでつくっているグループLINE。事務局からのお知らせに使われがただが、相談や自慢を持ち寄る場として使うこともできる。正副学生委員長のみなさんは、勇気をもってたくさん活用しよう！



2030年に向けて世界が合意した「持続可能な開発目標」です

9 産業と技術革新の基盤をつくろう



11 住み続けられるまちづくりを



17 パートナースhipで目標を達成しよう





組合員のありたい姿(2)：安全・安心

実現に向けて①

心身ともに健康で安全な組合員の生活を考えるため、組合員の現

課題(ア) データから組合員の実態を把握する。

- ・『給付事例学習会』や『学生生活実態調査』を活用して組合員の健康・安全に関する実態を把握。
- ・食堂の『小鉢の出食数』などから組合員の野菜の摂取量など食に関する実態を把握。
- ・行政が発行している『ハザードマップ』などを見て組合員が生活する環境にも目を向ける。

💡取り組みのヒント

京都教育大学生協
「給付事例学習会」



自大学の給付実績を生協全体で読み込み、組合員の実態を知るだけでなく共済ボードとして組合員に広める活動に活かした。組合員に自大学で多い給付事例の紹介や給付申請場所の紹介などを通して、共済についての認知度アップやみんなが起きやすい病気・事故について知ることにつながった。

大阪大学生協
「ヒヤリハットマップ」



阪大生に阪大周辺の地図の中で危険だと思った場所に印をつけていってもらった。この企画のあとに行われた自転車点検でもこのマップを掲示した。マップを作るだけでなく、その後も掲示場所・時期に工夫することで、より多くの組合員に身近な危険について考え・知ってもらうことができた。

課題(イ) 「この時期だから伝えられること」を適切に。

- ・『新聞』や『ニュース』から生活環境・社会の変化を掴む。
- ・『ひとことカード』や『取り組みを行った後のアンケート』などから組合員の今の声を集める。
- ・新学期活動で心身への負担や通学の危険を伝える。

💡取り組みのヒント

京都府立医科大学・府立大学生協(府立大)
「飲酒ゴーグル体験」

事前にとったアンケートから飲酒や飲酒事故の危険性があることがわかった。そのうえで、新入生に「未成年」と書いた缶バッジを配布、正しい飲酒方法についての冊子や、飲酒ゴーグルを装着してのドライブシュミレーター体験等を行い、組合員が飲酒の危険性を知るきっかけになった。



富山大学生協
「お料理教室」

新入生と一緒に料理をすることで、自炊に対するハードルを下げようとした企画。一緒に買い物をしたり冊子を配ることで、自炊をするうえで必要な情報を伝えた。一緒に話しながら買い物・料理をすることで、一人暮らし事情を伝えることもできた。



安全・安心にキャンパスライフを送り、健康な心身で何事にもチャレンジしていける組合員。

状と取り巻く環境の変化を実感と実態をもとに把握しましょう。

課題(ウ) すでに行っている取り組みを組合員の生活実感や実態をもとに見直す。

- ・すでに実施している取り組みの振り返りをしっかりと話し合いをしながら行い、現状を把握する。
- ・『取り組みを行った後のアンケート』などをもとに組合員の実感や実態を取り組みに反映させる。
- ・恒例化されている取り組みの『背景』『目的』をもう一度検討し、次の取り組みにつなげていく。

💡取り組みのヒント

奈良女子大学生協
「Beauty Health Lab」

食生活相談会。栄養士との相談や体組成など自分の健康状態を知る取り組み。すぐに実践できることをポスターにした他、栄養士からのフィードバック(=参加した組合員の現状)をもとに簡単なレシピや1日のモデルメニューなどを冊子にまとめて購買に設置した。

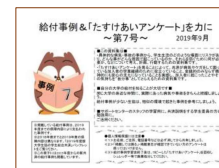


大阪千代田短期大学生協
「学生ランチ」

将来食が欠かせない職業(幼児教育や福祉関係)に就く学生が多いことからしっかりと食について考えてほしいという大学の想いから、試行的に週2回無料でランチを提供。大学と大学生協が一緒に食を通してコミュニティづくりができた。



💡活用できるツール



給付事例学習会のための資料

給付事例や、給付事例を用いた学習の先進事例や学習会のおすすめを載せている。どうやって学習会したらよいかわからない場合は、これを参考にするとうれい。





組合員のありたい姿(2)：安全・安心

実現に向けて②

健康な心身で何事にもチャレンジできる組合員を増やすため、実感

課題(ア) 組合員の実感や実態を活かした取り組みを行う。

- ・『給付事例』や『学生生活実態調査』などをもとにして取り組みを考える。
- ・『組合員の声』を取り組みに反映させる。
- ・『組合員を取り巻く環境』も取り組みに反映させる。

💡取り組みのヒント

和歌山大学生協
「新生保護者説明会」



参加者に学部や通学時間などのアンケートを取り、それぞれに適した形で提案。学生と職員が連携しそれぞれが役割を發揮した。「高校と大学の違い・保障制度の確認」を意識。切り口としては「4年間をカバーするという提案」「学業継続」の2点。

福井大学生協
「出張！給付事例カード」



店舗チームの企画「Daisen Choco Frappuccinoの販売」時に給付事例カードを掲示した。昨年の同時期(夏)の事例を選び、掲示することで、事故の啓発をすることができた。

課題(イ) 年間を通して4本柱を意識した取り組みを行う。

- ・たすけあいの輪から取り残される仲間を減らすために『加入チェック』を行う。
- ・『食生活相談会』や『三群点数法の周知』で組合員が自身の健康について考えるきっかけをつくる。
- ・『自転車点検会』『学生生活110番の周知』などの予防活動を行う。
- ・『共済ボード』などの発信物を使って組合員に大学生の実態と給付方法を伝える。

💡取り組みのヒント

大阪樟蔭女子大学生協
「もぐもぐ女子」

食堂でもらったレシートの三群点数表示の緑が1点以上だと、抽選に参加できる企画。この企画に連動して、Twitterでは緑が1点以上になる食べ合わせなどを紹介している。3群点数を意識しながら食堂のメニューを選ぶ組合員が増えた。



富山県立大学生協
「新生フェスタ」

新生フェスタの中の企画として、参加者に共済加入チェックカードの配布と説明を行い、未加入者への促進と、自身が加入しているものを確認するための機会を作っていた。新生フェスタ後に相談窓口を設けて追加の加入に繋がった。



安全・安心にキャンパスライフを送り、健康な心身で何事にもチャレンジしていける組合員。

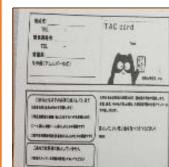
と実態をもとにたすけあいの輪が広がる取り組みを行いましょう。

課題(ウ) 組合員間でたすけあいの想いを“届けること”を意識した取り組みを増やす。

- ・様々な局面で「たすけあいの輪」を広げる機会をつくれないかを考えてみる。
- ・組合員自身が「たすけあいの想い」を伝える機会をつくる。
- ・組合員自身が共済制度を通じて「共済」の想いを深める学習会を設ける。

💡取り組みのヒント

福井大学生協
「TAC (トラバアクシデントチェック)」



旅行の前に共済に加入しているか確認してもらい、カードに記入する。また、旅行中のリスクを書いたチラシを作成し、配布する。チラシによってリスクを減らし、カードによってもしもの時にも安心して旅行を楽しんでもらう。

近畿大学生協
「新学期サポーター研修」



今年から導入した新学期サポーター制度。共済連の職員に協力を仰ぎ、サポーターが共済について学ぶ機会を設けた。学生委員ではない学生組合員が共済に触れ、自分の言葉で共済について説明できるようになった。

💡活用できるツール



自転車点検クリアファイル

2019年度関西北陸ブロック共済推進委員会が中心となってつくったブロック独自の共済月間ツール。クリアファイルを配るだけでも自転車を安全に乗るための啓発が行える。



全国共済セミナー事前学習資料

毎年全国共済セミナー参加者向けにつくられる共済基礎学習(事前学習)資料。「学生総合共済とあわせておすすめする保険」について「背景」と「制度」の基礎学習ができる。





組合員のありたい姿(2)：安全・安心

実現に向けて③

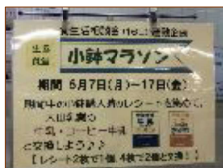
大学に関わる人々が安全で安心な生活を送れるよう、大学保健管理専門的な知識を活かした取り組みを行いましょう。

課題(ア) 他団体との協力へハードルがある生協は身近な団体と協力することからはじめる。

- ・ブロックや事業連合へ相談したり協力を仰いだりして取り組みを行う。
- ・大学の保健センターを訪問して、組合員の実態や取り組みを紹介する。

💡取り組みのヒント

大阪千代田短期大学生協
「食生活相談会」



ブロックと連携して食生活相談会を実施。連動して食堂で小鉢のメニューを購入したレシートを集めると大学生協牛乳/コーヒーと交換できる企画を実施。学生委員会はないがブロックとの協力によって食生活に関する取り組みを具現化できた。

滋賀県立大学生協
「ヘルチフェスタ」



大学の学科に關係する学内組織「食育推進隊」と協力して行った取り組み。SATシステムや血圧測定など学生委員会だけでは用意できないコンテンツを企画に取り込むことができた。すべてのブースで体験×説明を意識して取り組んだ。

課題(イ) 大学生協で行っている取り組みを大学の保健管理施設や他の組織にも知ってもらう。

- ・『給付事例』や『取り組みで使用した資料』などを持って保健管理センターを訪問し「想い」や問題意識を共有する。
- ・職員・学生で学長訪問を行い、取り組みの報告とその中で得た情報を話のきっかけとして扱う。

💡取り組みのヒント

富山県立大学生協
「健康店」



多くの人が集まる学祭という場で組合員はもちろん学祭に訪れた人にも健康について再確認してもらう企画。学生が一人暮らしなどで乱れがちな生活を見直すことができた他、学祭という場で行うことで大学生協が行っている取り組みを広く知ってもらえた。

滋賀県立大学生協
「健康相談室(保健室)へのインタビュー」



学生委員がセミナーづくりのために大学の健康相談室を担当する先生にインタビューに行ったことをきっかけに話が展開。インタビューでは食堂メニューの考案や留学生の生活のケアの話。数か月後「相談室内に共済の給付申請を促す案内物が欲しい」と問合せ。インタビューをきっかけに想いが伝わった。

安全・安心にキャンパスライフを送り、健康な心身で何事にもチャレンジしていける組合員。

管理施設や行政・医療生協・企業といった組織と協同し、

課題(ウ) 他団体との協力が恒例になっている生協は「なんのために」協力するのかを見直す。

- ・企画背景・目的を見直し「なんのために」「だれと」取り組むのかを見直す。
- ・協力することで組合員がどのように変化するのか、組合員の反応を考える。

💡取り組みのヒント

同志社生協(今出川)
「おいでよ相談の森〜KA・RA・DA大丈夫?〜」



学生組合員が健康について考えるために大学の保健センターと協力して企画。景品に小鉢券を用意し小鉢の栄養素紹介などのチラシも併せて配布した。自身の身体について総合的に見直せる機会をつくれた。保健センターとの協力することで、いつでも学内に頼れる場所があることを組合員に伝えられる機会になった。

神戸市立工業高等専門学校生協
「スポーツ大会での給水活動」



毎年行われているスポーツ大会にて熱中症対策としてスポーツドリンクを無償で提供している。配布には学生委員だけではなく生徒の手伝いもあった。アンケートから生協自体の認知度は上がっている一方で共済認知度が低いことが判明し、給水所に共済ボードを設置し共済に関する口頭での説明や事例紹介も行った。

💡活用できるツール



大学生の病気・ケガ・事故
ANNUAL REPORT

大学生協共済連などが作成しているデータ集。このほか各大学生協別の給付実績をまとめたポスターなどもある。こういったデータは新入生向けパンフレットなどと一緒に配布したり、食堂に掲示したりするだけでも、組合員の安全・安心な生活につながる。



組合員のありたい姿(3)：学びと成長

実現に向けて①

組合員の実態と実感を捉え先輩自身の言葉で一人ひとりに伝える

課題(ア) 新生が大学生活を具体的にイメージできるような一人ひとりに“伝わる”提案を自信を持って行う。

- ・次世代の組合員のために組合員が自分の言葉で大学生活の魅力を伝える。
- ・「コトモノ提案」を意識し、学生生活実態調査などから大学生の生活実感をまるごと伝える。
- ・新学期の取り組みではデータでの大学生の生活実態に併せて先輩自身の大学生活の実感を伝える。
- ・新学期時期の広報活動や個別の質問対応に力を入れる。

💡取り組みのヒント

兵庫県立大学生協
「入学準備ガイダンス」



卒業を控える4年生の進路インタビュー。今の進路を決めたきっかけやその進路に向けて取り組んだことなど、入学後イメージできるような工夫がなされた。

龍谷大学生協(瀬田)
「入学準備説明会」



実際の大学生の生活をヒアリングして集めるなど、コトを重視した提案や、同じ学部先輩に直接聞ける機会を作るなどの工夫が見られた。

課題(イ) 組合員がどのような大学生活を送りたいか、そして卒業後にどのような社会人になりたいかを、入学時からイメージできるような取り組みや提案を行う。

- ・新生がどのような想いや願いをもって大学に入学するのか学部や学科など細かく分けて分析する。
- ・先輩の経験談を後輩に伝えることで大学生活での経験をお互いに見直せる活動を行う。
- ・ビジョンナビゲーションセミナーやSEQといったツールの活用。

💡取り組みのヒント

同志社生協
「Campus Life Seminar」

同志社大学出身の社会人(4年目)の方から「バイト、サークル、インターンシップ、留学」など様々な話を聞いた。先輩の活躍は、新生に希望や憧れを抱かせる。入学直後だけでなく6月にも行われスタートから継続してなりたい姿をイメージすることができる。



京都大学生協
「X-academy」



自分の所属している学部以外の領域の先生・先輩・仲間・書籍と出会う場。1年間を通じて新しいコト・物・人・知識に出逢いをつくる取り組み。「京都大学で学ぶこと」に着目し、新しい「学びの場」の提案にもなっている。

日々のキャンパスライフに対して目的・目標を持ち、将来なりたい姿に向けて成長し続けて行ける組合員。

ことで、組合員が目的・目標を持つ機会を作りましょう。

課題(ウ) 上級生の関わりを増やし、下級生・上級生双方の学びと成長を図る。

- ・進路の決まった4年生、留学経験者や院生などの経験を伝える
- ・特に新学期の時期に、上回生組合員に取り組みへの主体的な参加を促す。

💡取り組みのヒント

愛知教育大学生協
「Meet & Greet」



教員採用試験(教採)応援と教採合格祝賀のための企画。教採に合格した4年生とこれから教採を受ける3年生が集まり、面接練習講座や食事をしながらの交流を行う。4年生の経験を3年生に活かすだけでなく、3・4年生のつながりを大学生協をフィールドにつくっている。

奈良県立大学生協
「知っ得!就活先取りしよう会!」

2日開催の企画。1日目は就活を終えた4年生から就活に不安を抱える2年生を中心とした参加者が話を聞く座談会を行った。2日目は大学のキャリアサポートセンターの職員さんから就活情報を聞く交流会を行った。



💡活用できるツール



SEQ(スチューデントEQ)

EQ(Emotional intelligence Quotient)とはその場の状況を把握し自分自身の気持ちをふさわしいものにモチベーションしながら周囲とうまく関係を築いていく、その時に「情動(感情)を管理・利用する能力」とされており、IQとの対比で「こころの知能指数」とも呼ばれている。SEQは主に大学生活のビジョンを描く新生や就職活動を控えた上級生などを対象に自己分析や素養開発のツールとして広く活用されている。キャリア形成支援の組織活動を行っている学生委員やアドバイザーの間にも広まってきているが、学生委員自身がSEQ受診・素養開発をすることで、その経験や成長実感を活かしながら組合員にもキャリア形成の輪を広めていくことに繋がる。





組合員のありたい姿(3)：学びと成長

実現に向けて②

学生組合員の入学から卒業までの大学生活を追い、一人ひとりが

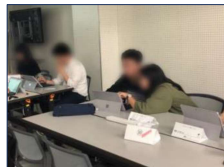
課題(ア) 年間を通して「コト-モノ-コト」提案を進めていく。

- ・大学生協が提供した商品やサービスがしっかりと大学生活の中で活用されているかを把握する。
- ・組合員の動向を追いつづけ、時期に応じて必要な提案を行う。
- ・その中で把握した組合員の実態を次世代の組合員への提案に活かす。
- ・組合員の目標達成をサポートできるようなキャリア形成プログラムや各種講座の実施を工夫する。

💡取り組みのヒント

京都教育大学生協
「PC講座」

生協でPCを購入した新生入生に先輩がPCの使い方を丁寧に教える取り組み。教育大生としてのPC活用法を提示して、社会に出た後(=教師になってから)のことまで考えたコンテンツを用意。



奈良教育大学生協
「同専修交流会」

入学後、日常生活をとにもする「専修」というカテゴリに着目して縦・横両方のつながりを意識した取り組み。企画後の参加者の生活までイメージして学生委員以外の上級生と一緒に企画をつくりこみました。



課題(イ) 学生組合員がそれぞれのなりたい姿へ向け、継続的に具体的に考えられる機会を設ける。

- ・進級や留学、進路選択など大学生活の「節目」にあわせたサポートを行う。
- ・定期的に「なりたい姿」を振り返る機会を設ける。
- ・学生組合員の就職や院進学などの卒業にむけた動きに対して、経験した先輩と交流する場をつくる。
- ・ビジョンナビゲーションセミナー受講者の定期的な交流の場をつくる。

💡取り組みのヒント

京都府立医科大学・府立大学生協(府大)
「留学生交流会」



留学に行きたい学生・留学経験のある学生が集った。生協職員から留学の基礎知識を紹介したのちに、留学経験者が留学に興味を持つ参加者に経験談を話したり、質問に答えたりした。上級生や生協職員の経験と事業がうまくリンクした取り組み。

立命館生協
「海外体験・留学のファーストステッププログラム」



英語力とコミュニケーションスキルを1年間かけて学べるプログラム。講座と海外ツアーをセットにすることで、前期に講座で身につけた知識を夏休みのツアーで実践、後期の講座で学びをブラッシュアップ。継続的に学びと成長を応援。

日々のキャンパスライフに対して目的・目標を持ち、将来なりたい姿に向けて成長し続けて行ける組合員。

なりたい姿を見つけ成長していく取り組みを年間通して行いましょう。

課題(ウ) 全ての取り組みにおいて、組合員が自ら学び成長できる機会を持てない工夫する。

- ・日常の行為について組合員自身が自分たちの生活にどのような影響があるか考える機会をつくる。
- ・リ・リパットの回収に取り組むことで背景にある環境問題を組合員が考えられる工夫をする。

💡取り組みのヒント

京都工芸繊維大学生協
「大山フェア」

ショップではポップなどで飾りつけを行いアピール、食堂では試飲会を行った。学生委員会がつくったピラには大山に実際に訪問して学んだことをまとめ、「なぜ大山牛乳なのか」を口とピラで説明しながら組合員に試飲してもらった。ひとつの商品からその背景を学ぶという視点を学生委員が他の組合員に自分の言葉で伝えられた。

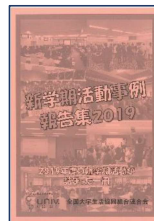


大阪大学生協
「大学祭における環境活動」

5月に開催された「いちよう祭」にて組合員や大学生来場者にリサイクル可能な食品容器、再使用が可能なリターナブル容器などを提供しごみの削減に取り組んだ。学祭実行委員をはじめ、学生委員以外の学生もごみ分別のルールを把握し、積極的に来場者に呼びかけた。



💡活用できるツール



新学期活動事例報告集

2019年度新学期活動の到達を測り、教訓的な取り組みを全国に広げることを目的として発行。実際に各生協に聞き取りをして作成されたため取り組みの当事者だからこそわかることや工夫したことも載っている。新学期会議や夏合宿などの議論の場で活用したい。データ版もスタッフオンリーページよりDL可能。

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

4 質の高い教育を
みんなに



9 産業と技術革新の
基盤をつくろう



17 パートナシップで
目標を達成しよう





組合員のありたい姿(3)：学びと成長

実現に向けて③

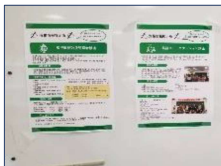
大学内のすべての人が必要な場面で必要な情報や機会を持ち自強化しましょう

課題(ア) 組合員がなりたい姿を実現するために必要な情報や機会をすぐに得られる環境をつくる。

- ・生協が扱っている商品やサービスの情報を発信する。
- ・大学生協が取り組む「学びと成長」事業についてコトモノ提案を軸に展開。
- ・読書マラソンやビブリオバトルなど、書籍店舗での読書推進の取り組みを行う。
- ・体験プロデュース型の旅行プログラムや資格講座などの旅行・サービスの積極的な提案。

💡取り組みのヒント

奈良県立大学生協
「資格情報掲示板」



資格講座や免許取得などの情報をポスターにまとめて掲示。読んでほしい対象や資格・講座の概要、申込の方法まで詳しく解説をつけた掲示物を作成した。

大阪大学生協
「阪大生の阪大生による阪大生のための本」



組合員から集めたおすすめの本の特設ブースを作って販売。大学祭でのアンケートをもとに多くの組合員を巻き込む企画で大学生協のサービス活用を提案できた。

課題(イ) 院生・留学生や社会人など様々な階層の人たちと大学生協とのつながりをつくる。

- ・卒業後の社会人と学生組合員の出会いの場・交流の場を設ける。
- ・学生委員会や院生委員会など階層を超えた組織委員会同士の交流を図る。

💡取り組みのヒント

甲南大学生協
「合格者保護者説明会」

大学に関わる様々な立場の人が力を合わせて説得力のある提案をした説明会。学生の意見が求められるところ、職員がこたえる手続きの確認や留学制度等の複雑な箇所など、学生委員・生協職員だけでなく、必要に応じて大学職員やOBOGからの説明もあった。



京都大学生協
「第5回研究コン」

普段関わることのない院生同士が研究室を超えて分野を超えて交流する企画。「研究コラボゲーム」で新たな研究テーマを考え、知見と人脈の両方を広げられる交流会となった。学部生以上に大学構内にいる時間が長い院生と大学生協の接点に目を向けた取り組み。



日々のキャンパスライフに対して目的・目標を持ち、将来なりたい姿に向けて成長し続けて行ける組合員。

発的に学び成長できるように、取り組みの発信力や大学との連携を

課題(ウ) 大学・大学生協両方の取り組みを把握し組合員が必要とする情報や機会を提供する。

- ・大学のキャリアセンターを訪問して大学生協の取り組みを報告・共有する。
- ・新学期の提案をキャリアセンターと連携して行う。
- ・就活支援企画をキャリアセンターと共催で行う。
- ・大学が掲げる理念や教育プログラムを把握し大学が提供する教育課程に応じた取り組みを行う。

💡取り組みのヒント

富山県立大学生協
「ちょっきにVol.05」



卓上の「ちょっきボード」でインターンシップについて扱った。内容を大学のキャリアセンターの方でチェックしてもらい完成。特に1、2回生のインターンシップについて取り上げており、早まる就職活動に合わせて計画立てて動くことの必要性を伝えた。

北九州市立大学生協
「海外企業でのインターンシッププログラム」

アメリカのパレンシアカレッジとMOU(覚書)を締結し大学での履修とウォルトディズニーワールドでの就労体験を組み合わせたプログラムを実施。外国語学部にあるいくつかの学科では単位認定がされるなど大学のカリキュラムとリンクした取り組みになっている。



💡活用できるツール



読書マラソン

「大学4年間で本を100冊読もう！」を合言葉に全国の大学生協で進めている取り組み。本を読むって面白いね、そんな気持ちをみんなで伝えたいという想いで始まった。いろんな本に同じ大学の学生の感想コメントが付いて並べる。本を読んだら、自分もコメントを書いてみる。読書記録を付けながら継続的に本を読むための取り組み。Web版も。
<https://www.univcoop.or.jp/fresh/book/marathon/index.html>





組合員のありたい姿(4)：社会に生きる

実現に向けて①

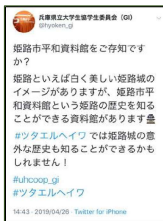
組合員が社会の一員であることを実感できるように、組合員が様々

課題(ア) 掲示物や企画・店舗などを通じた社会の動きを知る機会づくり。

- ・大学生協が行っている社会的課題の取り組みをポスターや店舗、機関紙、SNSなどで組合員に発信。
- ・「ちょっきにボード」を活用して他の組合員に投げかける。
- ・効果的に視点を増やすために時事問題(社会の動向に応じた情報)に関連した情報を発信。
- ・成年年齢引き下げや奨学金など学生生活に身近な社会動向から考える機会を作る。

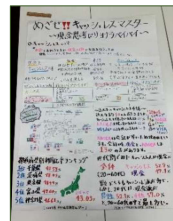
📌 取り組みのヒント

兵庫県立大学生協
「#ツタエルハイワ」



組合員が生活の中にある平和について知ったり考えたりするためにTwitterを用いて発信。「平和」を幅広くとらえ、戦争以外の視点として身近な平和に着目、組合員に発信することができた。自分たちの大学の近くの場所に関する情報で、とっつきやすい内容もあった。

近畿大学生協
「ちょっきにボードの作成」



現代の大学生の社会的課題に対する興味関心が低いという背景から、学生組合員に社会に関心をもつきっかけにしようという企画。キャッシュレスというホットな話題を用いることで、組合員の関心を集めることができた。

課題(イ) 大学生協の既存の取り組みの中で組合員が社会に目を向けることができるような機会を設ける。

- ・店舗で手軽に行える環境活動(レジ袋削減活動、リ・リパック回収、ゴミ分別など)を組合員に周知。
- ・大学生協ショップでのフェアトレード商品の販売や、食堂でTFT(Table For Two)メニューを販売。
- ・大学生協主催の企画(新学期企画や総代会など)で避難経路を説明やゴミ分別のアナウンス。

📌 取り組みのヒント

奈良県立大学生協
「Welcome Partyでのごみ分別」

新入生歓迎企画「Welcome Party」で提供した外注弁当のごみを班ごとに分別回収。当日応援に駆け付けた4年生が自発的にステージ前に回収ボックスを用意し分別を促した。ごみのかさを減らすとともに新入生の分別の意識付け、班内の協力体験にもつながった。



大阪市立大学生協
「新入生・保護者説明会でのリ・リパック利用と回収促進」

説明会の昼食体験の一部メニューをリ・リパック容器で出食。食堂利用中に組織部員が各テーブルを回り、リ・リパックのフィルムを剥がす実演を行った。新入生へのリ・リパックの周知に加え大学生協が環境問題について取り組んでいることを新入生やその保護者に伝えることができた。



社会の一員であることを意識・実感し、自分の考えを広げ、行動につなげていく組合員。

な社会的課題について考え包括的に捉えるきっかけをつくりましょう。

課題(ウ) 役職員や組織委員が社会的課題について学び、考えたことを広げていく。

- ・Peace Now!をはじめとする大学生協連主催の学びの場に積極的に参加する。
- ・組織委員会の部会で「社会を覗く時間」を作る。
- ・理事会や店舗で組織委員の学びを共有する場面を設ける。

📌 取り組みのヒント

大阪樟蔭女子大学生協
「学生委員会部会でのSDGs学習会」



社会的課題班が中心となって他の班の学生委員にもSDGsについて知って欲しいという想いと学長懇談で学生委員会活動報告をしたときの評価を背景に学習会を実施。学習会を終えてSDGsかけ合わせた活動もできるのではないかなという声もあり今後の取り組みの幅が広がった。

福岡女子大学生協
「Peace Now! 報告会」



組合員に向けて、Peace Now! の報告やワークを通して平和について考えるきっかけの場とするとともに、来年度のPeace Now!への参加を呼びかける会。学生だけでなく、理事の先生や留学生、英語の授業の先生にも声をかけ、様々な立場の人と意見交流を行う工夫をした。

📌 活用できるツール



eco-op～環境活動の手引書～

環境活動の意義とやりがい、そして具体的な活動例を伝えることで、全国大学生協連の各会員生協での積極的な環境活動の実践を促すために2018年当時の全国環境活動推進委員会が中心になって作成したハンドブック。データでも閲覧が可能。

<https://www.univcoop.or.jp/activity/eco/vol15.html>

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに



16 平和と公正を
すべての人に



17 パートナリシップで
目標を達成しよう



組合員のありたい姿(4)：社会に生きる

実現に向けて②

社会の一員であると感じた組合員が周りの組合員や社会に対し

課題(ア) 大学生協の「お店」を舞台に社会に良い影響を与えられるような取り組みを進める。

- ・フェアトレード商品や食堂でのTFTメニューの販売で組合員の行動の選択肢を増やす。
- ・リ・リパック回収・樹恩割りばしの使用や防災グッズの販売。
- ・災害発生時にショップや食堂に募金箱を設置し呼びかける。
- ・大山フェアを通して商品の背景を考えることの大切さを伝える。

！取り組みのヒント

奈良教育大学生協
「防災WEEK」

1週間にわたり生協の食堂・店舗で防災グッズの展示・販売、非常食の試食会、クイズ掲示、Twitterで防災に関する動画の投稿を行った。日常的な生協利用の場であるお店だからこそ多くの人にアピールすることができた。



立命館生協
「生協電子マネーでの緊急支援募金」



台風19号の被災者のための緊急支援募金箱を生協の各店頭で設置。同時に、生協電子マネーを使っている組合員も募金ができるように生協電子マネー対応の募金カードを用意して、組合員が手軽に募金という行動を起こせるように工夫された。

課題(イ) 社会的課題について考える組合員同士の交流を増やす。

- ・総会・総代会といった組合員参加の場を活用する。
- ・お店づくりや広報などを工夫する。
- ・院生やゼミ、教職員を中心としたワークショップの実施。

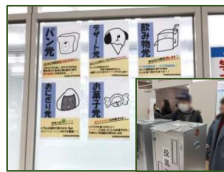
！取り組みのヒント

大阪教育大学生協
「総代会の分科会での工夫」



総代会の分科会において、「日常の中の平和」について考えた。参加者はそれぞれマンションの住民(20代女性、老人、車いすで生活している人など)になりきってみんなが住みやすいマンションを作ろうというワークを実施した。

立命館生協OIC
「選挙企画」



参議院議員選挙前に投票を体験することで選挙に関心を持ち行動に移してもらうために企画。6種類の商品を政党に見立てそれぞれの魅力をマニフェストにまとめた。本物の選挙箱を茨木市から借りたり、選挙に関するクイズを実施したりと関心を生む工夫もあった。

社会の一員であることを意識・実感し、自分の考えを広げ、行動につなげていく組合員。

て継続的に行動が起こせるよう工夫しましょう。

課題(ウ) 一時的・単発的な行動提案ではなく、継続的なアプローチで組合員の自覚を生む。

- ・ごみ箱に分別に関するポスターを常に貼っておく。
- ・食堂での掲示物を通してリ・リパックの回収率を定期的に報告する。
- ・毎月「ちょっきにボード」を更新する。

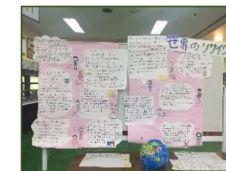
！取り組みのヒント

大阪教育大学生協
「キャップで世界を救うのだ！
～投票でポイントゲットだぜ～」



組合員にペットボトルキャップを用いてアイスの人気投票を行ってもらった。回収したペットボトルキャップをワクチンに変えて寄付する取り組みを行う団体へ送った。組合員が使命感ではなく、分別の習慣がつくように工夫をしており、期間中3522個のペットボトルキャップを回収することができた。大学からの評価が高く、この企画が実施されてからも継続的に実施されることになった。

神戸市外国語大学生協
「ちょっきにボード」



定期的に「ちょっきにボード」を作成し掲示している。テーマは多岐に渡るがどれも「海外」や「世界」を意識したものになっており、神戸市外国語大学生協が興味を持ちそう。定期的に更新していること、テーマをきちんと考えて作っていることから多くの組合員が見ている。

！活用できるツール



防災ハンドブック

このハンドブックを読むことで災害をより身近なものだと捉えてもらい、自分が災害に対してどのような行動をすれば良いか考えるきっかけにしてほしいと作成されたハンドブック。知り考え行動するためのハンドブックとして全国の組合員向けに作成されており、データ版での閲覧も可能。
<https://www.univcoop.or.jp/disaster/index.html>





組合員のありたい姿(4)：社会に生きる

実現に向けて③

社会の一員として組合員が学び行動できる場面をつくるため、大学

課題(ア) 大学や教職員と協力し社会的課題について深く学べる機会をつくりだす。

- ・大学生協主催で教員に居力を仰いで講演会を行う。
- ・書籍コーナーに「先生おすすめの本」コーナーを設ける。

！取り組みのヒント

東京大学駒場キャンパス
「平和書籍コーナー」



書籍部で行った「東大生協に関わる理事、教職員、学生が選んだ平和を考えるための40の書籍」というフェア。
1つのテーマに対して、様々な分野の教員や職員が本を提案することで多角的に考える機会をつくっている。
フェアの棚では東大生協の平和・国際活動をまとめた『Peace2019』の無料配布も併せて行った。

立命館生協
「京都で国会パブリックビューイング」



国会の様子を画面に映して、実際に行われている議論を見てく取り組み。生協のブックセンターを舞台に、数日程それぞれテーマを決めて行った。MCと解説には立命館大学の教員を招き、「憲法」(あいちトリエンナーレの問題など)や「日韓関係」について考えた。専門家の意見を聴きながら社会的課題や社会問題について学んでいく機会になった。

課題(イ) 他の協同組合などと連携し、そこで得た様々な視点の学びを組合員活動に活かす。

- ・地域生協や各種消費者団体、府県連が提供する学びの場や取り組みへ組織委員を派遣する。
- ・広報媒体を様々な工夫して学んだことを積極的に組合員に伝える。
- ・既存の取り組みに学びを活かす。

！取り組みのヒント

京都府立医科大学・府立大学生協(府大)
「平和に関する取り組み」

Peace Now!に参加した学生委員が主体となって年間を通して様々な取り組みに参画。部会での学習会から始まり、京都府生協連主催の「ヒバクシャと話すKyoto原爆展」の運営協力、それを踏まえての総代会での「ヒバクシャ国際署名」の呼びかけなど。



関西学院大学生協
「生協祭」

学内諸団体がブースや模擬店を出して盛り上げる恒例企画。学生委員会が出店していた屋台ではフェアトレードチョコを教材に使用したチョコバナナ味を提供。樹恩割りばしの使用など。また商品と一緒にフェアトレードチョコや樹恩割りばしの説明が書かれている紙を手渡した。



社会の一員であることを意識・実感し、自分の考えを広げ、行動につなげていく組合員。

や他団体との連携、連帯の場を積極的に活用していきましょう。

課題(ウ) 大学生協が行っている社会的課題の取り組みを積極的に発信する。

- ・学内の人々に関わる企画(学祭など)の機会を使ってセミナーの参加報告を行う。
- ・募金活動の呼びかけを大学外で行う。
- ・地域生協や地域生協連と協力して取り組みを行う。

！取り組みのヒント

園田学園女子大学生協
「学祭での日韓セミナーの報告」



連合会主催の「日韓学生交流セミナー」に参加した学生委員がそこで学んだことを組合員に広めるために行った取り組み。学祭にてセミナーの概要とそこで考えたことをまとめたポスターを掲示した。学生だけではなく広い世代の人たちに見てもらえた。

奈良女子大学生協・奈良教育大学生協
・奈良県立大学生協
「Peace Now! 奈良」



3大学生協から有志で実行委員会をつくり、3大学生協の組合員の生活圏である近鉄奈良駅周辺での平和学習セミナー。奈良県生協連の協力を得ながら準備を進め、当日はならこプの役職員の参加もあり、奈良で過ごす人たち同士で平和について学び考えを深め合った。

課題(エ) 学生団体との連携や大学の講義などとの連携。

- ・学内の社会的課題に取り組んでいる組合員に目を向け協力を呼び掛ける。
- ・教職員総代・理事やと連携して社会に目を向ける機会を広げる方法を考える。
- ・NPT(核兵器不拡散条約)の再検討会議や、成年年齢引き下げなど、社会の動向に目を向ける

！取り組みのヒント

滋賀県立大学生協
「学内団体による店舗装飾」



Table For Twoのプロジェクト「#Onigiri Action」の期間中、ショップにPOPを設置。このPOPは学生委員会ではなく、学内団体が作成したもの。学内で頑張っている組合員に目を向け「みんなのお店」であるショップに活躍の場を与え、組合員が学び行動する1つのきっかけになった。





K'sNEWS
を一覧！



バーコードから
HPへアクセス！



お知らせ
を一覧！

各エリアの
セミナーなどの
情報を発信！
他のエリアの
企画にも参加
できるかも！

HPから
学ぶ！

バナーから、
様々な学びに
つながるHPに
リンクできる！
チェックする
価値あり◎

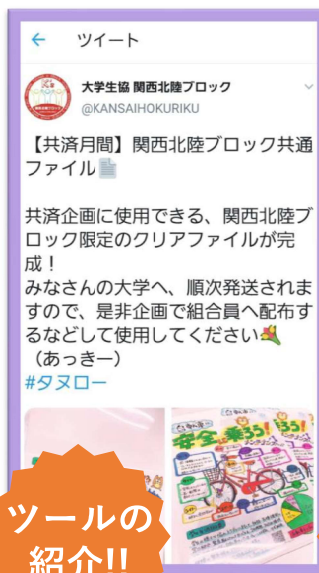


関西北陸ブロック事務局
のTwitterアカウントを
知ってましたか？
もっと多くのみなさんに
知ってほしい！
みんなにためになる情報
をたくさん発信していこ
うと思うので、フォロー
よろしくお願いします☆



K'sNEWS
更新情報！

取り組みを知る！



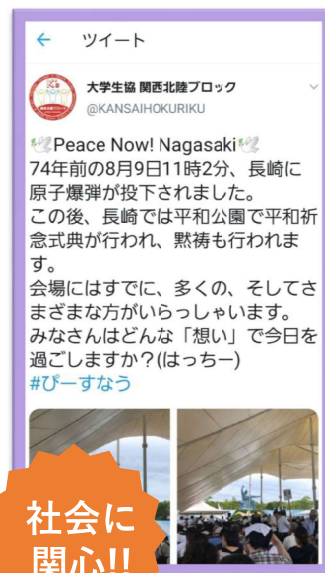
ツールの
紹介!!

活動をレベルUP！



セミナー
報告!!

学びを振り返る！



社会に
関心!!

自分の成長に！



スタッフオンリーページを活用しよう！

発行：全国大学生協連・大学生協共済連 編集：全国学生委員会

○ご意見・問い合わせ先
nfuca-gakusei2019@univ.coop

スタッフオンリーページとは？



スタッフオンリーページは、全国大学生協連のWebページに登場した情報掲載ページです！

スタッフオンリーページの使い方

※画像は、2019年7月現在のものです。



スタッフオンリーページの内容

スタッフオンリーページを開くと、
このような画面が表示されます！



- 大学生協インフォメーションサイト**
セミナー案内や、学生委員会活動の情報、モデル定款・規約など、全国大学生協連からのお知らせを掲載しています。
(※連合会が運用していた旧「informationページ」を移行しました。)
- ブロックNEWS**
各ブロック・エリアで発行しているニュースを閲覧・ダウンロードできます。
- 大学生協取得SNSアカウント**
全国の大学生協のTwitterアカウントが一覧で掲載してあります。
- 会員生協の調査活用事例のご紹介**
学生生活実態調査のデータを、会員生協で活用している事例を紹介。
- univ.co-op**
連合会が発行している機関紙「univ.co-op」の記事を一部掲載。
- ご提供リンクバナー集**
Webサイト作成の際には、こちらを利用できます。



「ブロックNEWS」の
ページでは、
ブロック別、カテゴリ別で、
記事の検索ができます！



「大学生協インフォメーションサイト」では、セミナー申込や、連合会ビジョン、全国総会、モデル定款・規約などの情報にアクセス可能です！

SDGsと大学生協

SDGsは、経済・社会・環境の3つの側面で持続可能な開発を進めることを目指しており、開発の中で誰一人取り残さないこと“*No one will be left behind*”を理念としています。

生協は、営利を目的とせず人と人との結びつきでよりよい生活を実現していく組織で、消費者組織であると同時に事業者であり、利用者である組合員が意思決定や運営に参加できるという組織特性を持っています。

大学生協は組合員の参加を活かし、協同体験を広げ、人と地球にやさしい持続可能な社会をつくることを基本的な使命としており、その理念はSDGsの基本理念と基本的に重なり合うものです。学生を主たる構成員とする大学生協は、未来社会の担い手により構成された協同組合といえます。持続可能な社会を実現するために、組合員どうしがともに学び合い、考え合い、話し合い、行動することが大切です。

関西北陸ブロック2020年度方針では、単年度方針「実現に向けて」についてSDGsとの関連性をマッピングすることで、社会的な責任と役割の自覚をブロックに広げ、取り組みを推進していきます。



2019年12月 発行

【作 成】全国大学生生活協同組合連合会 関西北陸ブロック 学生事務局

【文 責】四方 遼祐

【発 行】全国大学生生活協同組合連合会 関西北陸ブロック

事務局長 風折 昌樹

学生委員長 石田 龍太

〒532-0004 大阪府大阪市淀川区西宮原2-7-15 大学生協大阪会館

TEL 06-7659-9800

Mail kansaihocuriku-gakusei@univ.coop

H P <https://ksnet.u-coop.net/>